県内初、エコアーチ橋開通式

北薩造園協が施工

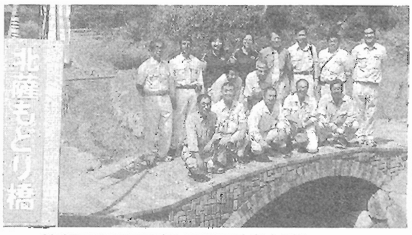
設計は大福コンサル

北薩造園業協会（田中高德会長、会員10社）が薩摩郡宮之城町の北薩広域公園内で2日から建設中のエコレンガを使った県内初の歩行用アーチ橋が完成、9日関係者らで開通式を行った。その後、鹿大工学部海洋土木科研究室による載荷試験を行い技術データ等を収集した。

完成した橋は全長が約5・7㍍。アーチ径間約3・3㍍、幅員約2㍍。使用材料は川辺町エコレンガや日置地区塵芥処理組合（松元町）の溶融スラグ、下水汚泥から生まれたレンガなどすべてエコ材料。しかも計画から設計、施工はすべて関係者らのボランティアによるものだった。

エコアーチ研究会代表の吉原進鹿大工学部教授は今回の試みについて「環境先進国ドイツですらまだ手をつけていないリサイクル残滓による先進的な試みである」と述べ、「この橋は、北薩造園業協会から寄せられた経費と労力を負担してでもリサイクル残滓を活用したアーチ橋をつくりたいという熱意。またその熱意に甲突川五石橋の移設で培った技術で応えたいという大福コンサルタント㈱との意気と協力で完成したものである」と最大限の賛辞を寄せた。彼らの熱意を称え、地域に元気が戻るようにと吉原教授自らが「北薩もどり橋」と命名した。

載荷試験は、ダイヤルゲージ9カ所をセットして江畑拓美社長（㈲拓美庭園）が運転する軽4㌧ダンプに20㌔の肥料袋50袋を積み、総重量2㌧を超える状態で100分の1の精度で変状を調べた。設計荷重は2㌧。特に変位は見られなかった。予想していたとはいえ設計担当の阿久根芳德技術部次長（大福コンサルタント㈱）もひと安心。



笑顔で記念写真に納まる参加者
＝宮之城町の北薩広域公園で

田中会長は「会員皆で協力してやり遂げることができました。今や造園技術もミリの時代ですよ」と満足そうに笑った。

吉原教授が言うように会員らの熱意は相当なものだった。田中会長は裏方に徹し、川内繁樹副会長（㈲川内緑造園）、石走豊稔副会長（石走造園㈱）らが先頭に立って現場を切り盛りした。

橋を支える2基の基礎コンクリートは会員の㈲村岡産業が養生期間を計算して数週間前から製作した。アーチ部分の型枠は㈲えいしん緑化建設の小永田修一社長が設計図面を基に5㌢ピッチで線をひき、Rを描いてつくった。ビオトープを勉強している上岡悟南日緑化㈱工務課長は、工事前に生息調査をしてメダカ等を下流に引っ越しさせた。「北薩もどり橋」は設計・施工の関係者の熱意と配慮で完成した。来園者の年配のご夫婦は「橋を渡って来ましたよ。公園内の景観にマッチしてレトロでいいですね。橋に温かみを感じます」と喜んでいた。

吉原教授は同技術の今後について「エコレンガや汚泥レンガの強度はコンクリート以上のものがあります。道路橋やトンネル、半地下にすれば野球場やサッカー場の円形ドームにも利用できます」と話していた。

テープカットは吉原教授、有馬同公園管理事務所長、西原川内土木事務所管理課長、田中会長がくす玉を開披した。

協力した団体・企業は次の通り。

設計＝大福コンサルタント㈱▽施工＝北薩造園業協会▽材料＝㈱エコ・クリエート日進化成㈱鹿児島営業所

森田総合土木奉仕作業

社員総出で草払い

㈱森田総合土木（森田繁美社長、鹿児島市）は7日、鹿児島市川上町の稲荷川上流河川敷で奉仕作業を実施、社員総出で草払いに精を出した。

同日は、早朝から社員らが草払い機やほうきなどを準備し、稲荷川上流の[illegible]生い茂った草を、手際よく次々と刈り取った。社員らは手慣れた作業とはいえ連日の猛暑の中、汗だくになりながら一生懸命作業を行い、周辺は見違えるようにきれいになった。

この場所には水神が奉られており、森田社長は「私が子供のころはこの辺の川で泳い[illegible]遊んだものだ。毎年少しずつではあるがこのような奉仕活動を実施することで、水神を大事に、教育の場として活用できるような川にしていきたい」と話した。

一生懸命に作業する社員
＝鹿児島市の稲荷川河川敷で

ダイマツ建設・協力会

初の合同奉仕作業

2保育園で建物補修

㈱ダイマツ建設（松元覚社長、鹿屋市）と協力会（伊牟田政美会長）は7日、鹿屋市内の保育園2カ所で初の合同奉仕作業として建築物等の補修を行い、園関係者や保護者から感謝された。

松元社長と伊牟田会長が地域に恩返し[illegible]と計[illegible]い、初めての合同作業となった。

当日は同市のダイマツ建設加工場で出発式が行われ、伊牟田会長（鹿児島インテック、鹿屋市）が「会の年間行事にはなかった計画でしたが、皆さんの協力に感謝します」と挨拶。松元社長は「[illegible]ほしい」と激励した後、2班に分かれて出発した。

作業場所は、鹿屋市下高隈町と上高隈町にある2カ所の保育園。参加者35人は、ウサギ小屋補修や古くなった藤棚の支柱交換、玩具小屋、送迎バス車庫等の補修にプロの腕を発揮した。また草払いも行い、心地よい汗を流した。

作業終了後に参加者の一人は「初めての奉仕作業だったが皆さんに喜ばれることがうれしかった。今後も続けていきたい」と話して[illegible]

作業前に写真に納まる参加者
＝鹿屋市のダイマツ建設加工場で

堀之内建設奉仕作業

カーブミラー180本清掃

㈱堀之内建設（堀ノ内重夫社長、姶良郡牧園町）は7日、牧園町内の町道4路線で、カーブミラー約180本の清掃作業等を実施し、地域住民に感謝された。

午前8時、本社に集合した参加者を前に、堀之内社長は「8月10日の道の日にちなみ、奉仕作業を実施する。かねてお世話になっている地域住民の方々に対して、感謝の意を込めて作業を行っていただきたい」と挨拶。続いて岡元耕治副社長が班編成や作業場所を説明した後、「作業中は必ず誘導員を配置し、脚立の転倒等事故のないよう、安全第一に作業を」と注意を促し、参加者は作業場所へと移動した。

参加者は3人1組の4班に分かれ、それぞれ町道三体線等の三体地区、同母ケ野線の霧島ゴルフ場から横瀬線、同1号の霧島町までと栗野町までの4路線で、カーブミラー清掃や見通しの悪い場所の枝葉撤去を行った。

真夏の太陽の下、汗びっしょりになりながら黙々と作業する様子に、多くの近隣住民が「ありがとう」、「お疲れさまです」等と声を掛け、参加者は笑顔で応えていた。

誘導員を配置して行った清掃作業
＝牧園町の現地で

河野組奉仕作業

大熊川で雑草除去

名瀬市の㈲河野組（河野龍造社長）は4、5日の2日間、大熊川で雑草除去やごみ拾いの奉仕作業を行った。

[illegible]して大熊河川沿い約300㍍にわたって生い茂った雑草の伐採を実施した。また現場には心ない人たちのポイ捨てによる空き缶やごみも目立ち、社員らはそれらを一つずつ拾っていった。集められたごみはその日のうちにクリーンセンターへ運び、刈り取った雑草はひとまとめにし町内会の許可を得たのち焼却処分することにしている。

大熊川は集落の中心を流れる川で住民にも親しまれているが、最近は雑草が生い茂り流れも悪くなっていた。川そばに事務所を構える河野組ではこの現状を憂慮、この日の作業を決めた。河野社長は「新潟や富山で起きた豪雨災害をニュースで見て他人事ではないと思った。地元で仕事をする者として地域に密着した奉仕作業を今後も続けていきたい」と話していた。

河川の雑草伐採を行う社員
＝名瀬市の大熊川で

曳家（ひきや）工事・解体工事
土木一式工事・建築一式工事
株式会社大城
県知事許可（特－12）第4087号
本社　鹿児島市下福元町1955-1　☎(099)275-3600㈹
下荒田事務所　鹿児島市下荒田1-18-2　☎(099)254-3938